

3章 ヨーロッパ地誌

問題

解答

【1】

問1. A - ③ B - ① C - ② D - ⑤ E - ④

問2. A - ② B - ③ C - ④ D - ① E - ⑤

問3. A - ② B - ⑤ C - ④ D - ③ E - ①

問4. A - ② B - ③ C - ① D - ④ E - ⑤

【2】

問1. A - ④ B - ③ C - ⑦ D - ⑤ E - ⑩

問2. X - ⑤ Y - ⑥

問3. ア - ① イ - ② ウ - ③ エ - ⑤

問4. (a) - ⑤ (b) - ② (c) - ④

問5. ②

【3】

(1) ア - U字谷 イ - フィヨルド ウ - 酪農 エ - 移牧

(2) X - B Y - A Z - C

(3) 氷河期には大陸氷河が発達し海水面が低下したため、現在の大陸棚はほぼ陸化しており、海岸線は現在より大西洋側に後退していた。(60字)

(4) 沖合を暖流の北大西洋海流が北上し、海水温が他の海域より高い。(30字)

(5) 化石燃料の大量消費で発生する酸性雨の影響で湖沼が酸性化する。(30字)

【1】

図中の5カ国(A～E)は、Aがノルウェー、Bがアイルランド、Cがフランス、Dがハンガリー、Eがギリシャを示している。

問1. ヨーロッパの自然は、アルプス山脈を境に大きく変化する。アルプス山脈以南の南ヨーロッパは、新期造山帯(アルプス＝ヒマラヤ造山帯)に属して山がちで平野に乏しいうえ、夏季に乾季となる地中海性気候区(Cs)が卓越する。一方、アルプス山脈以北の北・中央ヨーロッパは、古期造山帯や安定陸塊に属して平野に富んでいるうえ、年中偏西風の影響を被って、西岸海洋性気候区(Cfb)や冷帯湿潤気候区(Df)が卓越する。このため、ヨーロッパの農業は、アルプス山脈以南の南ヨーロッパでは地中海式農業が中心となるのに対して、アルプス山脈以北の北・中央ヨーロッパでは混合農業のほか、特に氷食を被ったやせ地の広がる地域では酪農が中心となっている。

問2. ヨーロッパの民族は、南部のラテン系、東部のスラブ系、北西部のゲルマン系という3大民族のほか、ハンガリーのマジャール人、フィンランドのフィン人、ラップランドのサーミ(ラップ人)などのウラル語族の言語を話す民族、アイルランド一帯のケルト系民族、ギリシャのギリシャ系民族、さらに、バスク地方のバスク人などによって構成されている。

宗教の特色は、キリスト教が優勢で、ラテン系民族の間ではカトリック（旧教）、スラブ系民族の間では東方正教（ギリシャ正教）、ゲルマン系民族の間ではプロテスタント（新教）が優勢である。しかし、ラテン系民族のなかでもルーマニア一帯では東方正教、スラブ系民族のなかでもポーランド、スロバキアなどの西スラブ系民族やゲルマン系民族のなかでもオーストリアからドイツ南部ではカトリックが優勢である。

問3. Aのノルウェーは、第二次世界大戦後、社会福祉の拡充に傾注した結果、スウェーデン、デンマークなど他の北欧諸国と同様に、高福祉国家となっている。山がちな地形と氷食を被った痩せ地の存在を背景として農業は不振であるが、沖合に暖流の北大西洋海流と寒流の東グリーンランド海流が会合して創出された好漁場が存在することを背景として、世界的な漁業国となっている。また、1960年代に北海油田が開発されて以降、ヨーロッパを代表する資源国の一員となっており、今日、ヨーロッパ最大の産油国、石油輸出国、天然ガス産出国となっている。なお、1972年のヨーロッパ共同体（EC）加盟、1994年のヨーロッパ連合（EU）加盟、何れもが国民投票で否決されているため、EU非加盟国となっている点に注意したい。

Bのアイランドは、国土の15.4%が耕地、46.6%が牧場・牧草地として利用されている（2007年）。永らくポルトガルなどとともにより西ヨーロッパの最貧国のひとつとされてきたが、1990年代に入ってからEUの統合とアメリカ合衆国などの外国資本による投資などを背景に電子・電気、化学などの先端技術産業を中心として急激な経済成長を遂げた。

Cのフランスは、アメリカ合衆国、中国、日本、ドイツに次ぐ世界第5位のGDPを誇っている（2010年）。また、世界最大の観光客入国数（2009年）を誇るほか、EU最大の農業国である。その一方で、工業生産活動も活発に行われており、ワイン、バター、チーズなどの食品工業から自動車・航空機などの輸送用機械工業まで、多様な工業の発達がみられる。

Dのハンガリーは、温帯草原のプスタを中心とする肥沃な国土を背景として、第二次世界大戦前は農業国としての色彩を強く有していた。しかし、第二次世界大戦後、社会主義計画経済によって重工業化が進められたうえ、1989年の体制転換を契機として積極的な外資導入を行って経済開放を推進し、「旧東欧の優等生」と呼ばれるほどの高い経済成長を実現してきた。しかし、2004年にヨーロッパ連合（EU）に加盟したものの、巨額の財政赤字の存在が障害となってユーロ導入への見通しは立っていない。

Eのギリシャは、農業、運輸業、観光を主力産業としている。農業は、地中海式農業によるオリーブなどの生産が中心で、小麦・トウモロコシなどの穀物の生産は不振であるため、農業国でありながら食料自給を達成できていない。また、古くから地中海一帯で貿易を展開してきた歴史を背景として、海運業も盛んである。海運業は、観光業と移民からの送金とともにギリシャの三大収入源となっている。

問4. ①は輸出額が突出して大きな値を示すうえ、輸出第3位品目に航空機があがっていることから、エアバス社の本社を有するCのフランスと判断する。②は原油と天然ガスで輸出額の2分の1以上を占めているうえ、輸出第5位品目に魚介類があがっていることから、Aのノルウェーと判断する。③は輸出第2位品目に有機化合物、第3位品目に医薬品といった生産に高度な技術が要求される産品があがっている一方で、第8位品目に酪農品、第9位品目にアルコール飲料があがっていることから、Bのアイランドと判断する。⑤は輸出第10位品目にオリーブ油があがっていることから、Eのギリシャと判断する。よって、④がDのハンガリーとなる。

【2】

問1. A. バーミンガムは、ロンドンとリヴァプールの間点付近の、イギリスのミッドランド地方に位置する工業都市である。産業革命の進展にともなう、ミッドランド炭田からの石炭と近隣で産出される鉄鉱石を背景として、ブラックカントリー（黒郷）と呼ばれる重工業地域を形成した。

B. ドルトムントは、ドイツ北西部のルール地方を代表する工業都市である。ルール炭田で産出される石炭と、北海とライン川を結ぶ水路の一部であるドルトムント＝エムス運河を利用して供給される鉄鉱石を背景として、鉄鋼業都市として繁栄した。しかし、近年は石炭資源の枯渇や産業構造の変化によって鉄鋼業が不振化し、ハイテク産業や第三次産業へのシフトを推進している。

C. ビルバオは、スペイン北部のバスク地方の中心都市で、地元で鉄鉱石が産出されることを背景に鉄鋼業を基幹産業とする工業都市化し、この国で最も豊かな都市のひとつとして知られている。しかし、今日、鉄鉱石は枯渇しており、工業から観光とサービス業に基幹産業をシフトさせる努力がなされている。

D. 先端技術産業は、研究・開発部門が頭脳の集積が顕著で、最先端の技術・情報の入手が容易なパリなど大都市部や先進諸国への立地を指向するのに対し、量産部門が賃金・地価が低廉で生産コストが低い地方農村部や発展途上諸国への立地を指向する。

E. 流行性の強い製品の生産を行うファッション関連工業や印刷・出版などの情報工業は、流行・情報の発信基地となるパリ、ロンドン、ニューヨーク、東京などの大都市への立地を指向する。北イタリアのミラノもその一例で、1971年にヴァレンチノ＝ガラバーニがこの街にブティックを開いたことを契機として、イタリアのファッション産業の中心地がローマからミラノへシフトすることになった。

問2. X. 問1のBを参照。

Y. ドイツとの国境に近い、フランス北東部のアルザス地方からロレーヌ地方にかけての地域は、鉄鉱石と石炭を産出するためにフランスとドイツの間の係争地となってきた。メス（メッツ）はロレーヌ地方の中心都市である。

問3. ア. 鉄鋼業地域には、基礎素材の鉄が生産されることを背景として機械工業などの加工組立工業の立地も誘発され、工業の集積の進んだ大工業地域が創出されることが多い。スペインのビルバオは鉄鋼業のほか造船業、アメリカ合衆国の五大湖周辺には鉄鋼業のほか自動車工業の立地がみられる。

イ. 輸入原料に依存する工業は、一般に大消費市場に近接する港湾部への立地を指向する。石油化学工業はその例といえる。

ウ. 問1のDを参照。

エ. 問1のEを参照。

問4. (a)は動力立地型工業（⑤）、(b)は原料産地立地型工業（②）、(c)は交通立地型工業（④）の説明に該当する。なお、①は繊維工業や機械（組立）工業など、原料の状態でも、製品の状態でも重量に大きな差異の生じない工業が指向する立地型。③は自動車工業など、多種多様な工業によって生産される部品を必要とする総合組立工業が指向する立地型。

問5. アルミナを電気分解してアルミニウムを生産するアルミニウム精錬業は、安価・豊富

に電力を入手可能な地点への立地を指向する動力立地型工業の代表例。石灰岩を焼成して粉末化したセメントを生産するセメント工業は、原料の状態よりも製品の状態の方が重量が減じるので、原料の石灰岩や石炭の産地への立地を指向する原料産地立地型工業の代表例。IC（半導体）は機械（組立）工業の一例であるので、特に量産部門は賃金・地価が低廉で生産コストが低い地方農村部や途上諸国のうち、製品の輸送の便が良い地点への立地を指向する交通立地型工業の代表例。

【3】

(1). 氷河地形とは、氷河によって形成された地形の総称で、洪積世の氷河時代に氷河におおわれた北ヨーロッパや北アメリカに多くみられる。氷河の移動によって生じる侵食作用によってできたカール（圈谷）、ホルン（尖峰）、U字谷（氷食谷）、氷河湖などがある。大陸氷河の末端や移動のおそい谷氷河の両側には、大小の砂礫からなるモレーン（氷堆石）の丘が形成される。問題の対象となっているヨーロッパ北部には過去の氷河期に大陸氷河のスカンジナビア氷床が形成されていたため、氷河地形が多く見られる。U字谷（氷食谷）は、谷氷河に侵食された河谷のことで、通常の河谷がV字形の断面をしているのに対し、U字形を示している。これはV字谷が流動性の速い河川によって侵食されたものであるのに対し、U字谷は流動性も遅く体積の大きい氷河が広く侵食したためである。このU字谷に海水が侵入したものがフィヨルドである。フィヨルド（峡湾）は、氷河の侵食によって形成されたU字谷に海水が侵入してできた、細長く奥深い湾をもつ海岸を指す。一般に水深が大きく、両岸は絶壁をなしている。ノルウェー沿岸、チリ沿岸、カナダ～アメリカ合衆国アラスカの太平洋沿岸、ニュージーランド南島など高緯度地方にみられる。後背地が山がちのため、漁港が発達するだけで、大規模な貿易港は少ない。

酪農は混合農業から分化したもので、乳牛を飼育し、生乳や酪製品を生産することを目的とする。経営の特徴は、優秀な乳牛を飼育し、生乳のほか、バター、チーズなどの商品性の高い酪製品の生産と販売を行う。牧草のほかにカブ、テンサイ、ライ麦、大麦などを栽培するが、大部分は家畜の飼料となる。農場には、畜舎や冬の飼料を貯蔵するためのサイロとよばれる塔状の建物がみられる。一般に集約的経営で、労働生産性、土地生産性はともに高い。分布地域としては、西ヨーロッパのデンマーク・オランダ・イギリス・スイス・スウェーデン南部や、アングロアメリカ東部の五大湖周辺、ラテンアメリカのラプラタ川河口付近、オーストラリア南東部、ニュージーランドなどにみられる。このうち、西ヨーロッパやアングロアメリカ東部は大都市近郊に酪農地域が分布するため、生乳の出荷が中心であるが、南半球の酪農は放牧式であり、大消費地から酪農地域が遠いため、酪製品が主体となっている。

西ヨーロッパやアングロアメリカの酪農地域は、過去に氷河の侵食をうけて土壌がやせているため、穀物栽培には不適であることから飼料の栽培を前提に酪農が発達してきた地域でもある。

移牧は酪農の一種で、夏は山地の高原牧場で家畜を放牧し、秋から冬にかけて平地の牧場で舎飼いを行う。移牧は、スイスや地中海沿岸地方に広くみられ、主として牛・羊・山羊が飼育されている。

(2). 雨温図の判定問題。白地図上の位置からみて、Aはアイルランドのダブリン、Bはデン

マークのコペンハーゲン、Cはロシアのモスクワにあたると考えられ、ほぼ同緯度の地点に位置している。同緯度の地点においても、気候因子の影響によって気温・降水量には違いが発生することに注意したい。一般にヨーロッパの気候は、偏西風と暖流の影響により緯度のわりには温暖であるといわれるが、図2の雨温図が示しているように気温の年変化には明確な違いがあるといえよう。ヨーロッパでは同緯度の都市でも隔海度の差によって、西岸では気温の年較差が小さく、内陸では逆に気温の年較差が大きくなっていく。西岸では、沿岸を流れる暖流と偏西風、大陸と海洋の比熱の差などを原因として、夏は海洋から吹く偏西風が冷涼な風となることにより気温の上昇が抑制され、冬は偏西風が温暖な風となることにより気温の低下が抑制されるため、年較差が小さくなる。これに対して内陸は、偏西風や暖流よりも大陸の比熱の影響が気温の変化に反映されやすい。大陸は比熱が小さいため、そこに存在する大気も夏は温まりやすく、冬は冷めやすいことにより気温の年較差が大きくなっている。図2ではZが気温の年較差が最も大きくなっているため、内陸に位置するCと判断ができる。XとYを比較すると、Yのほうが気温の年較差が小さく、最寒月平均気温もXより高いため、Bよりもより沿岸（大西洋側）に位置するAであると判断できる。Aのダブリン、Bのコペンハーゲンはともに西岸海洋性気候区（Cfb）であるが、Cのモスクワは冷帯湿潤気候区（Df）に区分される。いずれもf型で明確な乾季は発生しないが、年間を通じて降水量が安定しているX、Yのグラフに対してZの降水量は夏季にやや降水量が多くなっている。これは、比熱の小さい大陸内部は夏季に気温が上昇しやすくなり、さらに高緯度側からの寒冷な気流の流入によって大気の状態が不安定になり、降水が発生しやすくなるためである。問題の判定にあたっては、降水量の差よりも気温の年較差から判断することが妥当であろう。

(3). 非常に寒冷で、大規模な氷床が存在した時代を氷河時代という。氷期と間氷期が繰り返して発生する。通常は新生代第四期更新世の氷河期をさすが、先カンブリア時代、古生代の石炭紀からペルム紀にかけての時代など、数回あったと考えられている。更新世の氷河期は、第1期（ギュンツ氷期）70～90万年前、第2期（ミンデル氷期）40～60万年前、第3期（リス氷期）13～20万年前、第4期（ウルム氷期）1万～7万年前であり、現在は第4期後の後氷期といわれる時代である。氷河期においては、陸地面積は現在よりも広く、海岸線もより後退していたと考えられる。地球上における水の量は現在まで一定であり、氷河期に入り、海水の一部が凍結すると海水の量は減少し、海岸線がより沖合へ後退し、陸上に存在する固体としての水、つまり氷河の量・面積は増加していたからである。現在の地球上の氷河の面積は陸地面積（1.5億km²）の約10%を占める。氷河は広い地域を覆う氷床、山岳斜面に存在する山地氷河、山の頂上に存在する氷帽などに分類されるが、氷床は南極大陸で約2kmの厚さがあり、地上の全ての氷河が溶解すると、現在の海水面は約60m上昇すると考えられている。

問題で問われている位置関係とは、氷河期と現在の海岸線の位置の差のことを指している。地球が寒冷化する期間に入ると海水の一部は氷となって陸地に存在していたことを考えれば、現在の大陸棚のほとんどが陸化しており、海岸線は現在よりも沖合側に位置していたことがわかる。

(4). ヨーロッパ北西部の気候が高緯度の割には温和である原因としては、一般に「ヨーロッパ北西部が偏西風と暖流の北大西洋海流の影響を受ける西岸海洋性気候区（Cfb）であり、偏西風が北大西洋海流の上を吹いて暖かい大気を運ぶため、冬の寒さがやわらげられ、一方、夏

は大西洋からの涼しい風を運ぶためである」ということが理由として挙げられる。

一般的な説明としてはこれでもよからう。しかし、なぜ偏西風の性質が夏と冬では変わるのか、という疑問を晴らしてくれるものではない。すでに(2)でもみたように、気候因子のひとつには「大陸と海洋の比熱の差」というものがある。海洋のもつ比熱の特性が、海洋から大陸に向かって吹く偏西風にも反映されるということを理解できるようにしたい。海洋は比熱が大きい（温まりにくく、冷めにくいという特性）ため、偏西風が夏は涼しく、冬は暖かいという特徴をもつのである。偏西風のようにほぼ同じ緯度帯を東西に吹く風は、その風が吹き出す地域の特性を反映するが、季節風（モンスーン）のように緯度をまたいで吹く風はまた別の特性を持っている。東アジアで夏に発達する南東季節風は、低緯度の海洋から吹き出す風なので温度・湿度ともに高い風であり、夏の北西季節風は、高緯度の大陸内部から吹き出す風なので温度・湿度ともに低い風となっている。

スカンディナヴィア半島沿岸部は、暖流と偏西風の影響を受け、気温の年較差の小さい西岸海洋性気候区となるため、北極圏内でもこの気候が発達し、冬でも港が凍結することがない。逆に、スカンディナヴィア山脈をはさんで風下側となるボスニア湾沿岸は冷帯湿潤気候区（Df）となり、特に冬季の気温の低下が著しいため、湾の高緯度側を中心に凍結が進む。そのため、港湾施設が使用できなくなり、スウェーデンのキルナやマルムベリエトなどの鉄山の鉄鉱石は、ボスニア湾に面したルレオ港を輸出港とするが、冬は大西洋岸に面したノルウェーのナルヴィクを輸出港として使用している。なお、近年は砕氷船の利用により、ルレオ港は冬も使用されている。

(5). 水質の変化によって生態系の破壊が深刻化している原因としては、生活用水や工場廃水などの水質汚濁のほかに、酸性雨の影響がある。化石燃料消費量の増加に伴って、1960年代後半から、特に北ヨーロッパで酸性雨による森林の枯死、湖沼の魚類の死滅、地下水・湖沼水の酸性化などが顕著になっている。スウェーデン国内では85000の湖沼のうち、約5%の湖沼で魚類が死滅したと考えられている。また、ドイツやポーランドなどでは、大理石で出来た石造建築物や石像などの溶解、金属の腐食などが進行している。近年はヨーロッパのほかにも北米の五大湖周辺や中国の沿岸部などでも酸性雨の被害が深刻化している。酸性雨の被害の問題点は、汚染物質（硫黄酸化物や窒素酸化物など）が発生している場所と被害をうける場所が異なることである。一般に汚染物質は偏西風などによって運搬されるため、被害地域がより広域化していく傾向にある。

北欧三国でみられる被害も、ヨーロッパの中部の工業地帯から偏西風によって運搬される汚染物質が原因となっており、被害範囲も西ヨーロッパから東ヨーロッパへとより拡大している。

4章 アングロアメリカ地誌

問題

解答

【1】問1－③ 問2－④ 問3－③ 問4－⑤ 問5－②

【2】

問1. A－O 問2. ①－Q ②－R ③－P

問3. A－適地適作 イ－100 ウ－500 エ－混合農業 オ－綿花
カ－春小麦

問4. バイオ燃料用の需要が増大し、トウモロコシの価格が上昇している。(31字)

問5. キー鉄道 クー鉄鉱 ケー石炭 コーピッツバーグ
サーゲトロイト シー日本 スーサンフランシスコ セーシアトル
ソー国際分業

問6. 主要材料のアルミニウムの生産が近隣で盛ん。(21字)

解説

【1】

問1. 正解は③。

Cは地衣類・蘚苔類が見られるツンドラ地帯で、針葉樹林は生育しない。

①. Aのアメリカ合衆国アラスカ州からカナダにかけての太平洋岸は、高緯度に位置するが、暖流のアラスカ海流により、西岸海洋性気候区が分布している。

②. Bのロッキー山脈は、新期造山帯に属し、高く険しい景観となっている。

④. Dのセントローレンス川の河口部には、エスチュアリー（三角江）と呼ばれるラッパ状の入江が形成されている。

問2. 正解は④。

Fはアメリカ合衆国から続く長草草原のプレーリー～グレートプレーンズに当たる。カナダは高緯度に位置し、国土の大部分が冷帯で乾燥した気候であることから、春小麦の生産が機械により大規模に行われている。

①. トナカイの遊牧は、カナダ北部のツンドラ地帯で見られる。

②. 穀物栽培と家畜の飼育を行う混合農業は、カナダでは南東部のセントローレンス川流域の一部地域で行われている。

③. 酪農は主に五大湖周辺地域で行われている。

問3. 正解は③。

オンタリオ州の州都であるトロントは511万人（2006年）とカナダ最大の人口を有し、商工業都市で、金融・保険業の中心地として知られている。

①. 「内陸水運の起点に位置する港湾都市」とあることから、ケベック州のモントリオールである。セントローレンス海路の起点に位置し、各種工業が発展している。

②、「豊富な石油・天然ガスなどの資源」とあることから、中西部のアルバータ州の州都であるエドモントンである。アルバータ油田の中心地域であり、石油精製、石油化学工業が発展している。

④、「水運・陸運の要衝」とあることから、西部のブリティッシュコロンビア州のバンクーバーである。太平洋岸に位置する港湾都市で、大陸横断鉄道の起点ともなっている交通の要地である。

問 4. 正解は⑤。

アは 1961 年から 70 年までは移民の大部分を占めていたが、70 年代に割合が大きく減少しているため、ヨーロッパが該当する。イはアと逆に割合が増加していることから、アジアが該当する。ウは中央・南アメリカが該当する。

カナダへの移民は、それまでイギリスやアメリカ合衆国・フランスなどからの移民を優先するという政策が採られていたが、1960 年代後半から 70 年代にかけて移民審査の基準や移民法が改正され、人種や民族を限定しないという措置が採られたため、その後、移民の民族構成に変化が見られるようになった。

問 5. 正解は②。

カは英語を母語とする割合が高いため、P のブリティッシュコロンビア州が該当する。キはフランス語を母語とする割合が高いため、R のケベック州が該当する。クは英語が 4 分の 1 以上を占めるが、その他の言語の割合が最も高い。イヌイットが多数派であり、イヌクティトゥット語が広く使用されている Q のヌナブト準州が該当する。

【2】

問 1. アメリカ合衆国の地形を概観すると、西半部が環太平洋造山帯に属するロッキー山脈などからなる新期造山帯地域、東半部はミシシッピ川流域の中央平原と大西洋岸の古期造山帯に属するアパラチア山脈からなる地域となっている。地形断面は、3000m 以上を通過していることを示しているので、ロッキー山脈を通過する A-O が該当する。

問 2. アメリカ合衆国の気候を概観すると、国土の中央部を走る西経 100 度線（ほぼ年降水量 500mm の等降水量線と一致する）を境として、西半部は太平洋岸の地中海性気候区（Cs）地域を除くと砂漠気候区（BW）やステップ気候区（BS）の卓越する乾燥気候（B）地域となっている。東半部は、フロリダ半島南部の熱帯気候（A）地域を除くと、北緯 40 度線を境として、高緯度側の冷帯湿潤気候区（Df）地域と低緯度側の温暖湿潤気候区（Cfa）地域に大別される。また、カナダの気候を概観すると、北極海沿岸のツンドラ気候区（ET）地域と太平洋岸の温帯気候（C）地域を除く大部分が、冷帯湿潤気候区地域となっている。

これを基に考えると、①是最寒月平均気温が -3°C 以上かつ 18°C 未満であるので、温帯気候（C）に属する Q 地点のデータである。②是最寒月平均気温が 18°C を超えているので、熱帯気候（A）に属する R 地点のデータである。③是最寒月平均気温が -3°C 未満であるので、冷帯気候（D）に属する P 地点のデータである。参考までに付記しておくと、P 地点はモントリオール、Q 地点はサンフランシスコ、R 地点はマイアミを示している。

問 3. アメリカ合衆国では、適地適作に基づく大規模機械化農業経営が展開されており、明瞭な農業地域の形成が観察される。その特色を概観すると、国土の中央部を走る西経 100 度線

(ほぼ年降水量 500mm の等降水量線と一致する) 一帯に出現する冬小麦地帯を境として、西半部は太平洋岸の地中海性気候区 (Cs) 地域で地中海式農業が行われているほかは、乾燥気候 (B) が卓越する影響で広く肉牛の放牧を核とする企業的牧畜業が行われている。ただし、近年は灌漑網の整備を背景として灌漑農業も活発化している。また、カナダとの国境地帯は、気温の低下にともなう蒸発量の減少によって乾燥の程度が弱まっている影響で、春小麦地帯 (S 地域) となっている。一方、東半部は、五大湖一帯の酪農地帯から低緯度側へ向かって、混合農業が発達しているトウモロコシ地帯 (T 地域)、綿花地帯 (U 地域) が縞状に配列している。

問 4. トウモロコシ地帯の農業は、トウモロコシと大豆を輪作することで地力維持を図るとともに、それらを飼料として利用して豚や肉牛などの家畜を飼育する混合農業としての性格を有している。しかし、近年は、トウモロコシをバイオ燃料の原料として利用することが活発化した影響でトウモロコシの需要が増大し、その価格が上昇していることを背景に、トウモロコシ栽培面積の拡大が顕著である。

問 5. アメリカ合衆国の工業地帯は、概観すると、早くから工業化が進展した北東部と、1980 年代以降に台頭したサンベルトに大別できる。北東部の工業は、ニューヨークなどの都市型工業、シカゴなどの農業関連工業を除くと、メサビ鉄山の鉄鉱石とアパラチア炭田の石炭などを背景にピッツバーグやクリーブランドなどに成立した鉄鋼業をバックボーンとする、デトロイトの自動車に代表される加工組立型工業が中心となっている。一方、北緯 37 度線以南のサンベルトの工業は、生産コストの低さなどを背景に立地したサンフランシスコ郊外のサンノゼ一帯 (シリコンバレー)、テキサス州ダラス一帯 (シリコンプレーン) などの先端技術産業が中心となっている。太平洋沿岸のシアトルやロサンゼルスでは航空機工業が発達しているが、日本企業などとの国際分業による生産体制が敷かれている。

問 6. アメリカ合衆国の太平洋岸地域には、対日戦争を契機とする需要の増大を背景として、航空機産業の集積が進んだ。特に、北西部のワシントン州シアトル一帯には、コロンビア川の豊富な水力資源を利用して近隣に立地するアルミニウム精錬業から主要材料のアルミニウムが潤沢に供給されることなどから、EU のエアバス社とともに世界の二大大型航空機生産企業のひとつとして知られるボーイング社が生産拠点を置いている。

5章 ラテンアメリカ地誌

問題

解答

【1】問1－① 問2－② 問3－③ 問4－④ 問5－⑥ 問6－①

【2】

問1－① 問2－① 問3－④ 問4－③ 問5－① 問6－④ 問7－①

問8－③ 問9－④ 問10－① 問11－② 問12－④ 問13－③

問14－⑤

解説

【1】

問1. 正解は①。

Aは赤道付近のアマゾン盆地に位置するため、高温多雨であると判断できる。したがって、Aが該当する。

Bはペルーの太平洋岸近くに位置しており、寒流のペルー海流によって大気が冷やされて上昇気流が起きにくくなることから、降水量が少なくなると判断できる。したがって、Iが該当する。

Cはボリビア西部のアンデス山中に位置しており、同緯度の平地に比べて気温が低く、年較差も小さくなる。したがって、Uが該当する。

問2. 正解は②。

Pの線は、ベネズエラのオリノコ川下流域からギアナ高地、アマゾン川中流域、ブラジル高原を通過している。南アメリカ大陸は、西側のアンデス山脈を除くほとんどが安定陸塊であり、平坦である。したがって、①と③は該当しない。④はアマゾン盆地に該当する断面の中央部に標高1000m前後の山地が続いているので、これも該当しない。よって、②が正解となる。

問3. 正解は③。

G付近には大陸棚が分布し、緩やかな斜面が深海へ続いている。

①. 海溝はプレートの沈み込む境界上にみられるものである。E付近はプレートの境界ではなくカリブプレート内であるので、海溝はみられない。

②. アマゾン川河口部の沖合に位置するF付近は、大陸棚と大陸斜面との境界部で、干潟は形成されていない。

④. H付近はナスカプレートが南アメリカプレートの下に沈み込む境界であり、チリ海溝とその北側にはペルー海溝が存在しているが、海嶺は存在していない。

問4. 正解は④。

ペルー南部には年間を通じて南東貿易風が吹いており、偏西風の影響を受けるのは南アメリカ大陸南部である。太平洋からチリ南部に吹く偏西風によって、沿岸の樹木には偏形樹がみられる。

問5. 正解は⑥。

K地域の太平洋岸はチリ南部に位置し、氷食谷に海水が侵入したフィヨルドが発達しており、海岸に迫る山地ではU字谷がみられる。また、湿潤な偏西風の影響で降水量が比較的多いため、温帯林が分布する。太平洋岸から東へ向かうと、アンデス山脈の谷には氷河がみられ、周辺には氷食された窪地に水がたまった湖が存在する。さらに東のアンデス山脈を越えたアルゼンチン南部は、乾燥しているため草原が広がっている。

問6. 正解は①。

Xは、プレートより下のマントルからマグマが吹き上がるホットスポットという場所に形成された、ガラパゴス諸島に位置する。ガラパゴス諸島には、独自の進化を遂げた動植物が多く棲息している。

Yは、ペルー北西部、アンデス山中の標高5000～6000 m級の山地が連なる地域であり、気温が低いことから、氷河や氷河湖が点在している。

Zは、イグアス滝である。イグアス滝は、北アメリカのナイアガラ滝、アフリカ南部のヴィクトリア滝と並んで世界三大瀑布の一つに数えられている。

【2】

問1. アンデス山脈は、新期造山帯のうちの環太平洋造山帯に属する山脈である。アメリカ合衆国の東部に位置するアパラチア山脈は、古期造山帯の山脈である。

問2. 南アメリカ大陸の南緯40度付近以南の地域（アルゼンチンとチリの領土に分かれている）を総称してパタゴニアと呼ぶ。南部にはツンドラ気候区（ET）地域も僅かにみられるものの、年間を通して太平洋からの偏西風の影響を被るために、チリ側は偏西風がアンデス山脈に妨げられた風上となって地形性降水がもたらされて多雨となるため西岸海洋性気候区（Cfb）、アルゼンチン側は風下となって下降気流が優勢となるため雨陰砂漠が形成された砂漠気候区（BW）がそれぞれ卓越している。なお、パタゴニアは、アルゼンチン側の乾燥地域の呼称として用いられることも多い。

問3. ドイツ、オーストリア、スイスの国境に位置するボーデン湖は、アルプス地方ではレマン湖に次ぐ規模を持つ湖沼で、五大湖などとともに氷河湖の代表例として知られている。

チチカカ湖は、アンデス山中のペルーとボリビアの国境地帯の高所に位置している。チャド湖は、チャド、ニジェール、ナイジェリア、カメルーンの4カ国の国境地帯に位置しており、近年、灌漑や気候変動の影響で、中央アジアに位置するアラル海同様に著しい水位低下と湖面の縮小が生じていることで知られている。東シベリアに位置するバイカル湖は、地溝帯に形成された湖沼で、世界で最も深い水深を持つ湖沼として知られている。ベネズエラ北西部に位置するマラカイボ湖は南アメリカ大陸最大の湖沼として知られており、約1000万年前までのアマゾン川の河口部に相当すると言われている。1918年に一帯で油田が発見された結果、今日、マラカイボ湖一帯はラテンアメリカのOPEC加盟国のひとつとして知られるベネズエラの国家経済を支える産油地帯となっている。

問4. ニューギニア島一帯を原産とするサトウキビは、採糖のほか、近年は燃料用エタノール生産の原材料として需要が急増しており、価格が高騰傾向にある。ブラジルとインドが二大生産国となっており、この2国で世界生産の約1/2が占められている。

問5. 氷河の縮小は、地球温暖化の進行が大きな原因となって誘発されている。一方、ヨーロッパ中央部で生じている森林の枯死は、化石燃料の消費時に放出された硫黄酸化物 (SO_x) や窒素酸化物 (NO_x) を原因とする酸性雨によって誘発されている。

問6. フォークランド海流は、南アメリカ大陸南端と、アルゼンチン沖に位置しているフォークランド諸島との間を北上する寒流である。フォークランド諸島（スペイン語名はマルビナス諸島）が、領有しているイギリスと、領有を主張するアルゼンチンとの間の係争地で、両国の間で1982年にフォークランド紛争（マルビナス戦争）が引き起こされた場であることも、あわせて確認しておこう。

問7・問8・問9. チリ北部に位置するアタカマ砂漠は、亜熱帯地方の大陸西岸部に沖を流れる寒流の影響で創り出される海岸砂漠の代表例として知られている。アタカマ砂漠は沖を流れる寒流のペルー海流の影響で形成された海岸砂漠、アフリカ大陸南西部のナミブ砂漠は沖を流れる寒流のベンゲラ海流の影響で形成された海岸砂漠である。

問10. エルニーニョ現象は、東太平洋の赤道付近で海水温が上昇する現象である。エルニーニョ現象が大規模に発生すると、ペルーでの豪雨、太平洋南西部漁場での不漁、東南アジアでの干ばつに代表されるアジア・オセアニア～北アメリカにまで及ぶ異常気象が誘発される。一方、エルニーニョ現象とは逆に、東太平洋の赤道付近で海水温が低下する現象はラニーニャ現象と呼ばれ、この現象が発生すると、日本では夏の高温、冬の低温と言った異常気象が誘発される傾向にある。

問11. テラローシャ（ポルトガル語で「赤紫色の土」を意味する）は、ブラジル高原に分布する玄武岩や輝緑岩などの火山岩が風化した赤紫色の間帯土壌である。水はけが良いため、コーヒー豆の栽培に適する肥沃な土壌として知られている。

チュルノーゼムはウクライナからシベリア南部にかけて、プレーリー土は北アメリカ中央平原一帯などに分布する、何れも肥沃な黒色土。ポドゾルは、シベリア地方のタイガ地帯など冷帯地方に発達する、酸性で地力の低い灰白色の土壌。レグールは、インドのデカン高原に分布する玄武岩が風化してできた肥沃な黒色の間帯土壌で、綿花栽培に適していることで知られている。

問12. マナオスは、アマゾン川の河口から約1500キロ上流のアマゾン川本流と支流のネグロ川の合流地点に位置するアマゾン盆地の中心都市である。

キトはエクアドルの首都、クスコはペルー南東部に位置するかつてのインカ帝国の都、ボゴタはコロンビアの首都、ラパスはボリビアの首都（法律上の首都はスクレ）で、何れもアンデス高地に位置する高山都市として知られている。

問13・問14. Cはペルー、Dはボリビア、Eはブラジルを示している。

すず鉱は、中世・近世にはイギリスのコーンウォールが世界有数の産地となっていた。ところが、産業革命により需要が急増するとコーンウォールのすず鉱は枯渇し、かわってイギリス植民地時代に資源開発の進んだ東南アジアのマレーシアが世界最大のすず鉱産出国となった。しかし、1985年までは世界の約1/4のシェアを占めていたものの、1985年にすず鉱の国際価格が暴落した影響でマレーシアのすず産業は壊滅的な打撃を被って、衰退が進んだ。今日は、中国やインドネシアなどが主要なすず鉱産出国となっている。

なお、Dのボリビアのすず鉱産出地としては、ポトシが知られている。



会員番号

氏 名